

世界健康安全保障イニシアティブ

仮訳 （原文は英語。原文との相違がある場合には原文を優先する）

協調行動の10年

世界健康安全保障：概要



世界健康安全保障という語は、多くの場合、国境を越える性質を持ち、安全保障にリスクをもたらし、経済を不安定化し、社会的な一体性を崩壊させ、政府の重要な業務に影響を及ぼす重大な健康上の事象への備えと対応を表すために用いられる。

各国政府と国際機関が取り組んでいる地球規模の健康安全保障の主なリスクには、化学剤（chemical）、生物剤（biological）、放射性物質（radiological）、核（nuclear）（CBRN）の脅威とパンデミックインフルエンザがある。地球規模の健康安全保障の様相に影響を及ぼした出来事としては、1995年に東京で起きた地下鉄サリン事件、2001年に米国で起きた炭疽菌芽胞の郵送事件、2003年の重症急性呼吸器症候群

（SARS）の発生、2009年の新型インフルエンザ（H1N1）の流行、および2011年に日本で起きた東京電力福島原子力発電所事故がある。

世界健康安全保障イニシアティブは、メンバー国の代表が集まって地球規模の健康安全保障の現在および将来の問題について話し合う実効的なフォーラムを提供している。また、このイニシアティブは、協調的なサーベイランス、検知、対応を通して世界的に備えを強化するために、他の各種機関とも協力している。

「我々は、多様な国家を代表する保健担当大臣／長官のグループとして、個別に或いは共同で、国民の健康と安全を守るために一致団結した行動をとり、公衆衛生を脅かす事件に対処する各自の能力を増強する、という決意を表明する。」

- 2001年閣僚共同声明

GHSI : 起源と任務

世界健康安全保障イニシアティブ (GHSI) は、2001 年 9 月 11 日の同時多発テロ事件を受け、テロリズムが世界の人々の健康に突きつける新しい脅威とリスクに立ち向かうことを目的として、保健セクターの活動に関する情報交換と調整のために発足した各国間の非公式ネットワークである。

メンバー国

GHSI を構成しているのはカナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、メキシコ、イギリス、アメリカおよび欧州委員会である。また、世界保健機関 (WHO) がオブザーバーとして参加している。

任務

GHSI の任務は、国際的な CBRN テロリズムの脅威への公衆衛生に関する備えと対応を強化するために世界的な協調行動を取ることである。2002 年、パンデミックインフルエンザと健康安全保障の関連に鑑み、この疾病への備えと対応が GHSI の任務に加えられた。GHSI の任務を遂行するための活動には、意図的な行為と自然事象双方の各種事態の教訓が取り入れられている。



GHSI : 構造

閣僚級会合: 各国の保健担当大臣が年 1 回会合を開き、時事的な政策問題についての対話を促進し、イニシアティブの方向性を定めている。

世界健康安全保障行動グループ (GHSAG): 各国の局長級実務者で構成される GHSAG は、大臣らの計画と目的を具体的な行動に移し、危機が発生した際に迅速なコミュニケーションのネットワークとして機能することを目的としている。GHSAG のメンバーは、地球規模の健康安全保障の問題について情報を交換し、GHSI ネットワークの政策の優先事項を協議し、技術レベルの行動の進捗状況を確認し、閣僚級会合の準備を支援する。

技術的／科学的レベル：専門家会合 (Working Groups)

リスク管理およびコミュニケーション WG は、CBRN リスク管理の計画策定、脅威・リスク評価、緊急時のコミュニケーション、および医学的対策などの分野での政策協調に責任を負う。このグループには、効果的なリスク・危機コミュニケーション戦略を策定して危機管理に統合するために設けられた**コミュニケーターズ・ネットワーク**が含まれる。

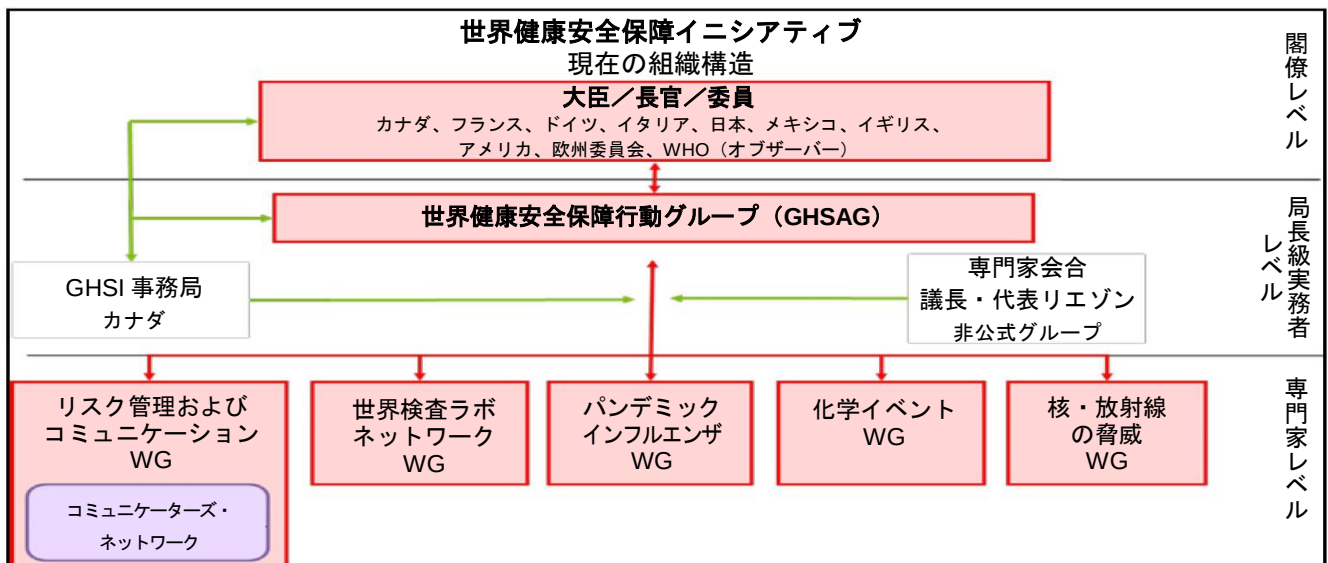
世界検査ラボネットワークは、診断の質の保証、手法や技術の柔軟性と適応性を向上し、検体の輸送の問題に取り組んでいる。

化学イベント WG は、有害な工業用化学物質のリスクの優先順位付け、人間の除染の分野における研究の必要性とベストプラクティスの特定のほか、早期警報・報告など複数の有害事象にかかわるその他のプロジェクトを行っている。

核・放射線の脅威 WG は、放射線防護や核の安全に関わる他の機関と協力しながら、緊急事態への備えを行い、対策や施設のマッピングなどの分野におけるプロジェクトを実施するとともに、緊急時の非公式コミュニケーション・ネットワークとして機能する。

パンデミックインフルエンザ WG は、各国の準備計画を含め、パンデミック対策計画策定についての情報共有に責任を負っている。2009 年に新型インフルエンザ (H1N1) が流行した際、このグループは疫学調査、サーベイランス、医学的対策、公衆衛生対策などの分野においてタイムリーな情報交換の調整を行った。

GHSI 事務局は、会合の準備、横の調整、イニシアティブ全体での総合的な優先順位の設定に責任を負い、ワーキンググループ議長と代表リエゾンの委員会の管理運営を行っている。



主な成果と継続中の活動

GHSI は、対話を行い、新しい知識を生み出し、ベストプラクティスを共有し、備えのアプローチについて情報を交換するフォーラムを提供することによって、健康安全保障の強化を目指した各国政府の活動に情報を提供している。また、GHSI を通じた協調行動は、各国政府がより強固な科学的証拠の基礎を築き、国の資源を効果的に利用するのに役立っている。

世界の舞台においても、このイニシアティブは健康安全保障の問題に関する協力と対話の場として活動してきた。WHO をはじめとする他の国際機関との協力を通して、グループのメンバー国にとどまらず地球規模の健康安全保障の活動の前進に有益な貢献をしてきた。また、GHSI に参加しているメンバー国の政府は、それぞれの地域内で健康安全保障に関連した問題に積極的に関与し、リーダーとしての役割を果たす立場にある。

* **脅威・リスク評価**は、GHSI のメンバー国がリスク評価を健康上の緊急事態への備えに関連付けるための基本的な要素である。主要な脅威の原因の体系的なレビューを通して GHSI 内での将来の優先順位の設定に情報を提供するため、脅威・リスク評価の共通手順を発展させる活動が進められている。これには、安全保障セクターと保健セクターの協力の強化、備えと対応における脆弱性の発見が含まれる。



- * 各国政府は、新たな事態について早期に警告を出せるようにするため、監視と報告のデータ収集に非常に力を注いでいる。これに関連して、GHSI 諸国は、公衆衛生の情報とメディア情報源を追跡し、意思決定者に重要な情報を伝えるために使用される**早期警報・報告の共通プラットフォーム**確立のための取り組みを継続している。
- * GHSI のネットワークは、電子顕微鏡検査、天然痘、炭疽菌、野兔病、Q 熱、ペストなどに関して**バイオセーフティレベルの高い検査施設**での分析作業の質を高めている。検査施設の能力の世界的に強化においては、外部品質保証のほか、検知、診断、輸送のベストプラクティスを重視している。
- * GHSI の活動から得られた教訓に基づき、重大な事態や健康上の緊急事態が発生した際の保健当局間の国際的なコミュニケーション能力を高めるため、**24 時間/週 7 日対応の緊急連絡ネットワーク**が創設された。

- * **戦略的なリスク・危機コミュニケーション**プロセスの確立は、効果的な備えと対応を確保する戦略の一部である。例えば、一般的なリスク・コミュニケーションのガイドライン、主要な脅威となりうる剤についてのコミュニケーション・ニーズに対応する具体的な戦略、およびリスク・コミュニケーションのベストプラクティス、不確実な状況下でのコミュニケーションの課題、公衆衛生上の緊急事態におけるソーシャルメディアの役割と影響力に関する政策文書の作成がある。
- * 化学剤、生物剤または放射性物質・核に関わる災害の重大性、程度、直接的な影響に関して情報を共有するために、政府間のコミュニケーション・ネットワークによって**リスク・インシデント・スケール**が考案された。
- * インシデント発生時に脅威要因の拡散を抑制・軽減するための保健セクターの重要な手段の 1 つに位置付けられているのが**対抗医薬品**、特に治療と予防接種である。この面での GHSI の活動の幅広い枠組みを提供しているのは、対抗医薬品の持続可能な世界的基盤の整備である。例えば、研究開発に関する情報共有、具体的な製品に関連した協力機会の追求、備蓄と配備に関連した法規と輸送管理の問題の議論が行われてきた。
- * GHSI 諸国が人間の**CBRN 除染能力**に関する世界的な証拠基盤にアクセスできるようにすることも、このネットワークの優先事項の 1 つである。例えばこの活動には、メンバー国間での最新の研究の共有、ベストプラクティスの確立と普及、実践方法と相互運用性の集中がある。
- * GHSI メンバー国は、世界的な健康安全保障を強化する上で、**国際保健規則（2005）**の実施を含めて WHO と協力する重要性を認識している。GHSI は、その活動成果の取り入れと普及を促進し、国際保健規則の実施に関する技術的な情報をメンバー国間で共有することによって、より広い目的に貢献することが可能になっている。GHSI は今後も世界的に国際保健規則の実施を支援する協力活動を継続する予定である。
- * **天然痘**は GHSI が早くから力を注ぎ、今も引き続き注目している問題の 1 つである。天然痘に関する協力活動としては、ユニークな国際的な訓練（「グローバル・マーキュリー」）のほか、特に起こりうる予防接種の必要性に関する計画策定の分野での WHO 事務局への支援などがある。
- * **2009 年、新型インフルエンザ（H1N1）**の流行に際し、タイムリーな情報共有の促進と各国の意思決定の支援において GHSI が非常に有意義な役割を果たすことが証明された。また、GHSI によって促進された協力関係により、流行発生の初期および大流行の全期間にわたって国際的な協力が導かれた。新型インフルエンザの流行から得られた教訓は、引き続き、GHSI メンバー国の総合的な準備対策に有益な情報を提供している。

* GHSI は、過去 10 年にわたり、各国の保健担当大臣、局長級実務者および技術的な専門家に、健康安全保障の問題に関する率直な討議ができる**信頼性の高いフォーラム**を提供してきた。このフォーラムを通して築かれた協力関係は、各国の保健担当大臣にとって国内外で健康の問題への取り組みを前進させるための資産となっている。たとえば、メンバー国は、2011 年の東京電力福島第一原子力発電所の事故やドイツでの大腸菌による食中毒の流行など、健康に関連した重大な事態に際して定期的に情報を共有している。

* GHSI は、恒常的に、国境を越えた**専門スタッフの能力構築**のニーズを明らかにし、ワークショップや研修を通してこのニーズに対応している。緊急事態への備えの政府間での共有、および共同で行う研修と計画策定は、GHSI の下で実行されている技術協力の核心といえる。



GHSI を越えた協力

健康安全保障はいくつかの国際機関や地域組織の中心的な任務の 1 つとなっている。このセクションでは、こうした組織の一部についてその活動を概説し、GHSI との協力の可能性がある分野を示す。

世界保健機関（WHO）

国連の専門機関の 1 つとして活動する国際組織、WHO は、GHSI にオブザーバーとして参加している。GHSI の活動は WHO が対応する健康安全保障の問題と一致している。両者が促進している活動には、メンバー国による国際保健規則の実施、感染症流行のサーベイランス・警報・報告における国際協力、知識・技術・検体等（実験室での標本とウイルスを含む）の透明性と共有、公衆衛生インフラの改善、ならびに訓練、サーベイランス、検査施設の能力強化、相互に関連した対応システムと予防への国および国際的な資源の増加などがある。

GHSI は、こうした連携をよりよく利用する方法を考えるために、今後も WHO との協力を継続していく予定である。

EU 健康安全保障委員会

EU 健康安全保障委員会は、EU 加盟 27 カ国と欧州経済領域 3 カ国の保健大臣の代表者で構成される諮問組織である。欧州委員会が議長を務めている。その任務は、テロリズムや生物剤その他の剤の意図的散布やパンデミックインフルエンザによる健康の脅威への備えと対応について、情報と経験を共有することである。そして、保健大臣らと EC に助言を行うことである。

国際原子力機関（IAEA）

IAEA は核の分野での国際協力活動の中心に位置付けられている。IAEA の事故・緊急事態対応センター（IEC）は、核と放射性物質の安全性または安全保障に関連した事故、緊急事態、脅威またはメディアの関心事象への国際的な備えと対応に関する世界的な活動拠点である。IAEA IEC は、この役割の一環として、迅速な国際的な通知、情報交換、協力、および国の能力を超えた事態が発生したときの国際的な支援を促進している。GHSI と IAEA はこれらの分野で密接に協力活動を行っている。

原子力機関（NEA）

NEA は経済協力開発機構（OECD）の専門機関である。NEA のミッションは、国際協力を通して、安全に、環境にやさしい形で、経済的に原子力を平和利用するために必要な科学的、技術的、法的な基礎を維持し、それをさらに発展させる上で、加盟国を支援することである。NEA は放射性物質と核の脅威に伴う人間の健康上のリスクに関する情報収集において GHSI を支援している。

今後の展望

健康安全保障の性質はいくつもの重要な点で変化を続けており、新しい課題を生み出している。新たに浮かび上がってきたこれらの課題は、政府が常に警戒を怠らずに備えと対応に取り組むとともに、国際協力を強化しなければならないことを明確に示している。

各国政府は、「オールハザード型」の備えと対応戦略をますます強調するようになっている。このアプローチは、さまざまな健康上の脅威やリスクに対応するために共通のプラットフォームを利用するよう促すものである。

GHSI は、2001 年に協力活動を開始して以来、タイムリーな情報交換と効果的なネットワークによってその価値を実証してきた。そして、それは、CBRN の脅威とリスクに関連した対応能力と意思決定の強化を実現している。

これからも、健康安全保障は発展していくだろう。それ故、健康上の緊急事態への備えと対応に関する GHSI の活動は、変化する脅威にも、変化する健康安全保障の情勢にも対応していくことができるだろう。

